

# ソーシャルメディア上の投稿の言語内容にみる新場古鎮に関するイメージの日中間比較

## Comparison of Japanese and Chinese Image of Xin Chang Ancient Town through Texts on Social Media

奥山研究室 24M50030 池田 瑤葵 (IKEDA, Tamaki)

**1. 序** 長江下流域、太湖周辺に点在する江南古鎮は、中国の伝統的な水郷町の代表的存在である。これら古鎮では1980年代後半以降画一的な観光開発が進み、生活・文化環境の破壊が懸念されている。一方、その中で地理的に離隔され、独自の歴史的産業を持つ新場古鎮には、今もなお伝統的な街並みやそれと共存した生活様式が残されており、過度な開発を免れてきた特徴的な古鎮であるといえる。こうした古鎮の観光体験に関する情報は中国国内だけでなく日本のソーシャルメディア上の投稿においてもみられ、その内容からは各古鎮の観光体験の特徴を読み取ることができる。そこで本研究では、旅行情報サイト上に投稿された江南古鎮に関する日本語投稿の言語内容を分析することで、新場古鎮におけるイメージの特性を明らかにし、また中国語によるSNS投稿を対象資料とした先行研究<sup>1)</sup>を踏まえ、日中間におけるイメージ特性の違いを明らかにすることを目的とする。

**2. 構成要素と価値属性** 本研究では旅行情報サイト<sup>2)</sup>上に寄せられた、新場を含む11の江南古鎮(図1)に関する投稿<sup>3)</sup>を対象とし、投稿の内容を意味段落に分類した(表1)。資料とした投稿には、観光客が立ち寄って感銘を受けた場所や、印象に残った体験などの記述がみられ、古鎮の観光体験において特徴的な空間構成や魅力を捉えることができる。例えば図2の西塘107-4および新場44-15の分析例では、古民居が水路沿いに立ち並ぶ景観に感動した体験や、水辺の石駁岸(石造りの護岸)や橋に歴史的価値を見出す様子が読み取れる。そこで意味段落ごとにこのような「景観」や「石造りの護岸」などを古鎮の観光体験のイメージを形成する主となる構成要素として抽出し、「水路沿い」や「水辺」などを構成要素と水との関わりを示す語句(以下水要素)として整理した。さらに「素晴らしい」「何百年前から変わらない」「完全な形で保存されている」といった構成要素に付随する価値表現も併せて検討した。

**2-1. 構成要素と水要素** 構成要素を景観や建造物などに関する《空間》、人々の行動に関する《活動》に大別し、それらを《地理的位置》《街並み》《土木構築物》《建物》

表1. 総資料数

古鎮	日本		中国	
	投稿数	単位数	投稿数	単位数
新場	45	393	107	235
西塘	198	1883	93	266
錦溪	45	388	89	205
烏鎮	149	1085	88	211
周庄	25	208	64	145
同里	153	945	108	267
同里	100	774	94	248
震沢	0	0	77	165
沙溪	4	56	4	18
惠山	39	131	45	117
黎里	0	0	70	169
合計	758	5863	839	2046

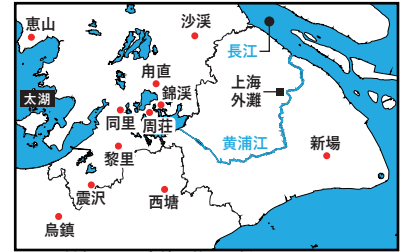


図1. 対象とする古鎮の位置関係

古鎮	投稿番号	投稿年	構成要素と水要素	価値属性
西塘	no.107-4	(2014.10)	狭い路地を通り抜けると、江南水郷古鎮の代表格・西塘の水路に着きました。水路沿いの民家は殆ど明清時代の建物、古橋もたくさん残っていて、その内11脚は宋代のもので今も現役との事です。素晴らしい景色です。水路の両側はこの様な建物が連なっています。何百年前から変わらない景色です。	2-1. 構成要素と水要素 《空間》(街並み) [景色] 水辺 2-2. 価値属性 (付加価値) [感覚] + / [文化] 3. 差異化表現 {優位}
新場	no.44-15	(2008.03)	石駁岸と馬鞍水橋が一番多く、完全な形で保存されているのが新場の特徴。各家に一ヶ所あり水辺に降りて洗濯、洗物、舟の乗り降りに使います。両岸に石駁岸が並ぶ水郷の街ならではの風景、各家の玄関口にあたります。石橋を渡るとそのまま民家に入れます。各家に専用の橋がかかっています。	2-1. 構成要素と水要素 《空間》(土木) [階段] 水辺 2-2. 価値属性 (付加価値) [文化] 3. 差異化表現 {独自}

図2. 分析例

構成要素		5863(1656)	水要素を伴う構成要素の割合
空間	《地理情報》	ex 浙江省北部の桐郷市中心部から北西へ15キロにある烏鎮。	16%
	《周辺情報》	ex 近くには台湾老街もあり、充分楽しめます。	
	《交通情報》	ex 蘇州駅からバスで1時間で往ける場所です。 420(68)	
	《景観》	ex 水郷は曇っていたので水墨画の世界のようでした。	
	《街路空間》	ex 煙雨長廊。長さ1キロに及んで切れ目なく屋根が続く。	
	《路地》	ex 石皮弄。路地に敷かれた石が皮のように薄い。 1315(580)	
	《橋》	ex 新場大街が北開港を渡る石橋、美しい半円の弧を描く。	
	《門》	ex 石笋里牌坊。石笋里牌坊の前は石笋街。	
	《階段》	ex このような川に面した階段をたくさん見かけました。602(251)	
	《民居》	ex 洪東街116弄にある古民居、ベランダの枠組みが昔のまま。	
活動	《建物》	ex 中の店も面白いです。船屋さんなど見ものです。	14%
	《各種施設》	ex これは銀博物館の展示。貝でボタンをつくるところです。	
	《建築部位》	ex 高い「うだつ」が沢山あります。金持ちの象徴。 1248(178)	
	《像》	ex 一角獣がお出迎え。魔物が町に入るのを見張っているそう。	
	《サイン》	ex むしろ、階段にあった、こんな面白日本語に目が行ってしまう	
	《飾り》	ex 派手な赤提灯が何とも中華風。飲み屋には酒瓶が飾られている	
	《しつらえ》	ex 景区内のポストがなかなかオシャレでした。 173(19)	
	《食品》	ex 「トマトと卵の麺(西柿西炒雞蛋麵)」を注文。なかなか美味。	
	《飲料》	ex お酒は紹興酒が有名でなかなか美味しい。	
	《工芸品》	ex 同里名物毛糸の靴下。一足購入。 536(47)	
イベント	《見学》	ex このおじさんは運河に滑っているゴミを取り除く人。その方も絵になる。ついついカメラを向けてしまいます。	33%
	《体験》	ex 本日の宿。月満西塘客栈。景区内にあって素晴らしい立地。きれいで設備も十分です。 1569(513)	

図3. 構成要素の分類と水要素 ※()内は水要素数

基本	付加価値
<b>アクセスの良さや店舗の充実性などの機能を示すもの</b> ex) 案内所があり、ここでは通常100元のチケットが88円で買え、無料送迎バスが利用できます。村の入り口で入場券を買うと高齢者割引(半額)もあります。 784(648)	<b>【感覚】 視覚聴覚味覚などの身体感覚および体験を通じた感情の機微を表すもの</b> +ex) 街中はタイムスリップしたようで歩いているだけでも楽しかった。 -ex) 路地に入ると、いくつかある臭豆腐屋さんの前が、結構、においます。 2236(806)
<b>【文化】 固有の歴史・歴史的なたぐいまれな特産品などの文化を示すもの</b> ex) このエリアには上海優秀歴史建築に認定された建物、浦東新区歴史建築に認定された建物が多く立ち並んで居ます。清代初頭から民国初年までの建物が多いようです。 891(533)	<b>【交流】 地元住民や他の観光客との関係や交流を示すもの</b> +ex) 住民の皆さんがお茶を飲んで居ました。私も休憩させていただきました。 -ex) ボッタクリ人力車に乗り、変な大仏のある場所に連れていかれました。 225(110)

図4. 価値属性の分類 ※()内は中国語投稿における資料数

〈屋外構築物〉と〈生産物〉〈イベント〉に分類した(図3)。特に橋から見た景観や街路空間を示す〈街並み〉、古民居やお店、うだつや瓦などの建築部位に関する〈建物〉、そして地元の人々の生活の見学や観光ツアー等の体験を示す〈イベント〉が多くみられた。また、水要素を伴う構成要素の割合を図3右側に示した。特に〈街並み〉や〈土木構築物〉〈イベント〉において水要素との関連が多くみられ、水路と一体化した建築群が織りなす[景観]や水路を横断するための[橋]、水辺に降りる[階段]、船で水路を遊覧する[体験]などがある一方、[食品]や[工芸品]などの〈生産物〉においては少数にとどまった。

**2-2. 価値属性** 次に、構成要素を価値付ける表現を価値属性として抽出し、その内容を検討した(図4)。その結果、価値属性は観光の利便性、快適性を示す(基本価値)と、観光者の体験により得られる魅力や優位性を示す(付加価値)に大別でき、さらに後者を主観的な嗜好や味覚、嗅覚などの五感に基づく感情の機微を表す【感覚】、古鎮の歴史や特産品などの文化を表す【文化】、地元住民や観光客同士の関わりを示す【交流】に分類した。

**2-3. 構成要素と価値属性** 構成要素と価値属性の組合せを整理し、古鎮ごとにその関係を検討した(図5)。

構成要素の《空間》《活動》と付加価値の【感覚】【文化】の全体平均に対する割合から、〔空間・文化型〕〔複合型〕〔空間・感覚型〕〔活動・感覚型〕〔活動・文化型〕<sup>4)</sup>の5つに大別したところ、中国語投稿では〔空間・感覚型〕に該当する古鎮が最も多かったのに対し(図5下部)、日本語投稿においては〔空間・文化型〕が最多となった。これより水路の景観などによる感覚的魅力が観光価値の中心とされる中国に対し、日本では保存された街並みや特産品などの文化的価値が重視されるという日中間の差異が読み取れる。日本語投稿において**新場**は〔空間・文化型〕に該当しており、また古い街並みと一体化した生活の様子への言及が多くみられる。それに対し中国語投稿においては〔活動・感覚型〕に分類され、民居下層階の飲食店での食べ歩きなど感覚的価値が注目されており、対照的な結果となった。また日本語投稿において〔複合型〕は**西塘**のみが該当し、宿泊して食事を満喫し、早朝の静謐な街並みを楽しむといった、《活動》《空間》双方への言及が多くみられ、観光向けに整備の進んだ古鎮として受容されていることが読み取れる。〔活動・文化型〕は**周荘**のみであり、観光開発の進展と文化的価値の共存が相対的に優れた古鎮であると評価できる。

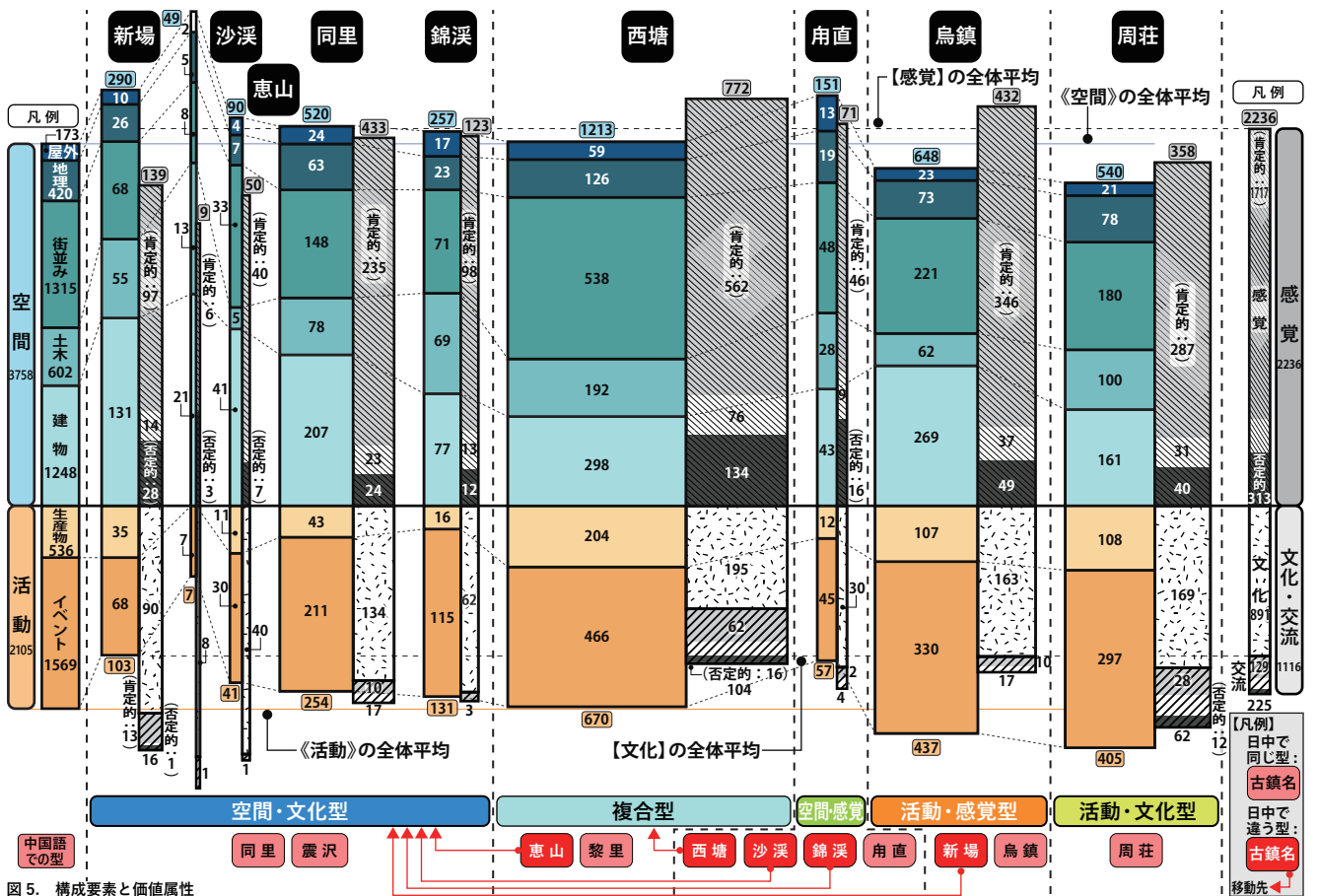


図5. 構成要素と価値属性



**4. 新場における撮影地点の分析** 本章では新場に関する投稿に付随する写真を対象に、その撮影地点の分布特性と撮影対象の種類を分析し、日中間で比較を行う。投稿からは図7の分析例のように、文章内容を参考に写真資料の地点を特定することができ、2008年から2025年の18年間で127個、計215地点が抽出された。なお中国では2021年から2024年の4年間で51個、計129地点が抽出された<sup>5)</sup>。次に抽出された撮影地点を、2章の構成要素《空間》の細目に応じて種類を整理したところ(図8)、日中ともに《建物》への言及が多く、中国語投稿では飲食店が大半を占めたのに対し、日本語投稿においては、文化財である民居やレストラン、カフェなどの飲食店、果物屋や家電修理店などの地元住民を顧客とする店、小中学校や消防署等の公共施設など多岐にわたって言及がみられた。また、日本語投稿では門や橋などの《土木構築物》も《建物》の次に多く言及された。

さらに撮影地点の言及回数と撮影対象の種類を併せた日中の結果を地図上にプロットした(図9,10)。先行研究において、時代を下るにつれて観光開発の進展に伴い撮影地点の分布が南側に広がる傾向が指摘されていたのに対し、日本語投稿においては、南だけでなく東西においても広域に分布していることが読み取れる。日本において、新場は生活と一体化した様相を享受する古鎮として捉えられているという前章までの結果と併せて考察

すると、日本人は過度な開発の及んでいない部分も含めて街全域を散策していると考えられる。また図10で、中国語投稿においては《建物》の[お店]の中でも特定の飲食店が幾度も言及される傾向にあったのに対し、日本語投稿で複数回言及される地点は古くからの《土木構築物》の[橋]や《建物》の[民居]などの空間要素が多数であった。これより、人気店を訪れて食べ歩きを楽しむ観光体験が中心である中国に対し、歴史的な建造物などからなる景観を享受する観光体験を重視する日本という、観光における志向の差異が捉えられる。

**5. 結論** 以上、旅行情報サイト上に寄せられた江南古鎮に関する日本語投稿を対象に、その構成要素と価値属性、差異化表現から古鎮ごとのイメージ特性を検討し、先行研究をもとに日中間比較を行った。その結果、新場において、日本では生活と一体化した環境の文化的価値が強調されるのに対し、中国では食を中心とする感覚的価値が注目されるという対照的な傾向を明らかにした。さらに日中双方において新場に関する差異化表現は一方に限定されており、観光価値の焦点は異なるものの、他の古鎮とは差別化された特性を捉えることができた。

註 1) 江南古鎮に関するSNS上の投稿の言語表現からみた新場古鎮のイメージの特性(張, 2025)  
 2) 旅行情報サイトのうち、旅行者の投稿から新場古鎮に関する観光体験の内容が充分にみられたTripadvisor、4travelレビュー、4travel旅行記を扱う。  
 3) 2022年に世界遺産暫定リストに登録された西塘、錦溪、烏鎮、新場、甬直、周莊、同里、震沢、沙溪、恵山、黎里古鎮において、新場古鎮の最も古い投稿に合わせ、旅行日が2008年1月以降でかつ投稿日が2025年9月以前の観光客の実体験に基づく内容が見られた日本語による投稿758件を分析対象とする。  
 4) 既往研究では《活動・文化型》がみられなかったが内容を再度精査し、新たに追加した。  
 5) 2025年9月に新場古鎮を視察した際、再度集計を行った。



図8. 撮影地点の種類

